

寅さん歩 その 18

東京の学食めぐり- 19



平野 武宏

「寅さん歩」の愛読者からの要望で始めた「東京都にある大学の学食めぐり」です。最近是一般の人も食べられる学食が増えています。このテーマは訪れるだけでなく、実際に食べて・コメントが必要です。取材やコメントでは関係者にご迷惑をかけないように配慮します。メニューの選択やコメントはあくまでも「寅次郎の好み・独断」としてお読みください。構内の写真撮影は建物外観のみで人物が写り込まないことが原則です

今回は医療系の二つの大学の学食です。都心にあるのに訪問に二の足を踏んでいました。理由は幼少の頃から一族で初めての医者誕生を密かに期待されていた寅次郎、血を見るのが嫌で医者は断念した過去があり、医大に近寄るのを避けていました。実は成績が足りなくて断念との説もありますが・・・メニューや値段は訪問時のものです。右上写真はパンダの食事風景です。食べ過ぎて、こんなに太らないよう注意です。最寄り駅は代表例です。

〔東京医科歯科大学〕 文京区湯島 1-5-45

最寄駅 JR線 御茶ノ水駅

聖橋口から聖橋を渡ると左手の大学の脇に「近代教育発祥の地」の案内板があります。案内板には「江戸時代、このあたりは学問（儒学）の府であった湯島聖堂（孔子廟）の一部、昌平坂学問所（昌平黉）があった所である。寛政 9 年（1797 年）学問所の学寮、宿舍が建てられ、旗本や藩士の子弟を対象とした教育が施された。明治維新後、学問所は新政府に引き継がれ、昌平学校、大学校、東京大学と発展していった。明治 4 年（1871 年）文部省が設置され、我が国の近代教育の原点となる施策が展開されることになった。当地には明治 5 年（1872 年）師範学校（翌年に東京師範学校と改称）が開校し、その後、隣接地に東京女子師範学校が置かれた。東京高等師範学校は明治 36 年（1903 年）大塚窪町に移転、後に東京教育大学（現在の筑波大学）となり、東京女子高等師範学校は昭和 7 年（1932 年）大塚に移転し、後の新制大学として発足の折、ここの地名を校名に冠し、お茶の水女子大学と称し、現在に至っている」と記載。

大学公式サイトには『「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会福祉に貢献を基本理念としている。昭和3年（1928年）東京商科大学（一ツ橋大学の前身）の校舎を借りて東京高等歯科医学校を設置（創立年）、昭和5年（1930年）湯島の東京女子高等師範学校の跡地（現在地）に移転、昭和19年（1944年）東京医学歯学専門学校となり、医学部を設置、昭和21年（1946年）東京医科歯科大学（旧制）、昭和26年（1951年）国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）となる。医学部は新八医（八つの官公立の旧制医学専門学校）の流れをくむ官立医科大学、歯学部は日本最初に設置された官立の歯科教育機関である』と記載。



写真上左は聖橋から見た大学全景、写真上右は御茶ノ水橋を渡り、御茶ノ水門から見た医学部附属病院正面（右の建物）、写真上左の右側茶色の建物は歯学部附属病院です。医学部附属病院隣のM & Dタワー（2009年完成の医歯総合研究棟、II期棟）、8号館、3号館、5号館、6号館、歯学部附属病院近くに1号館、2号館、7号館、10号館の校舎があります。ガードマンに「学食は一般の人も入れますか？」と聞くと「お金さえ払えば（笑）」と学食のある5号館の生協食堂の場所を教えてくださいました。写真下左は5号館の入口、豊富で安価なおかずのメニューが陳列、選択・組み合わせでマイランチができます。



カツカレーはどこの学食でもあるので、カレー（中）とアジフライを選択し、アジフライカレーとし、レジで精算 484 円でした。

平日の営業は 10 時 30 分～19 時。11 時 50 分～12 時 40 分は一般の方はご遠慮くださいと表示。

学食としては御茶ノ水口正面の医学部付属病院下、右手の建物（食堂棟）1F に「あるめいだ」（写真下左）、B1F に「グリル峰」（写真下右）もあります。



「あるめいだ」の定食 550 円・630 円

「グリル峰」の定食は 500 円～800 円

病院内にもレストランがありますが、学食価格ではないようです。

〔東京慈恵会医科大学〕

港区西新橋 3-25-8 最寄駅 三田線 御成門駅

大学公式サイトには『当校の源流は明治 14 年（1881 年）高木兼實により創立の「成医会講習所」に始まる。高木兼實は明治 8 年（1875 年）から 5 年間、海軍生徒として英国セントトーマス病院医学校に学び、いずれ日本にこのような権威のある医学校をつくってみたいと思ったとのこと。脚気の原因を栄養欠陥と提唱し、日本海軍から脚気を撲滅した人として世界的に有名。

高木兼實は当時のドイツ的医風を範とする「権威主義、研究至上主義」で病気を持つ人間を医学研究の対象や研究材料と見る傾向からイギリス的医風の病に苦しむ人間としてみる医風へ転換しようとししました。明治 18 年（1885 年）有志共立東京病院なる慈恵病院を発足、また医師と看護婦は車の両輪との信念で、看護教育所を設立（日本近代看護教育の始まり）病院総長は有栖川威仁親王です。明治 20 年（1887 年）皇后を総裁に東京慈恵医院と改め、大正 10 年（1921 年）東京慈恵会医科大学に昇格』と記載。

寅次郎、病院と皇室との関係を知りました。

御成門駅 A5 出口から芝郵便局先を左折すると慈恵大学病院
外来棟（写真下左）、道路をまたぎ 3F から E 棟・中央棟への連
絡通路（写真下右）で繋がっています。

外来棟の後ろは大学 1 号館。外来棟隣に新病院、E 棟・中央棟の
脇には新外来棟を平成 29 年から 2 年をかける建設工事中でした。



外来棟の 7F にレストラン「二葉亭」がある
と聞き行きました。写真下右は海老ピラフ 770 円。



B1F にも蕎麦屋があると聞き、行きました。

神田神保町「松寿庵」で 440 円～800 円、こちらの方が学食風で
中には食べに来た人の白衣が吊るされていました。



外来棟の入口には「病気を診(み)ずして、病人を診(み)よ！」
～歴史的背景にたった理念～ の建学の精神、病院の理念、基本方針、看護部の理念が書かれたパネルが掲げられています。

写真下は外来棟と地下や3Fで繋がっていて、愛宕通りに面した中央棟（写真下左）です。8Fには洒落たレストラン（写真下右）もあります。地下は高木会館と繋がり、洒落たベーカリー・飲食スペースと外来棟にあった神田神保町「松寿庵」がありました。オレンジ色の明るいスペースで白衣の女性など人が多いので写真は遠慮しました。



次回は 東京の学食めぐり-20 です。

平野 寅次郎 拝